

情報連絡員報告総括表(令和元年8月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>(臨時・パートを含む)</small>			業界景況			
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化	
製 造 業	食 料 品		3	1		4		1	3			3	1			4		3	1		3	1		4			1	3
	織 維 工 業		2	1		3			3			3			3			3			3			3			2	1
	木 材 ・ 木 製 品			1		1			1				1			1			1			1			1			1
	紙 ・ 紙 加 工 品			2	1	1			2			2			2			2			2			2				2
	印 刷		1			1			1			1			1			1			1			1			1	
	化 学 ・ ゴ ム																											
	窯 業 ・ 土 石 製 品		1	2	1	2		1	2		1	2			1	2		3			1	2		3			1	2
	鉄 鋼 ・ 金 属			1			1		1			1			1			1			1			1				1
	一 般 機 器		1	2		3			2	1		2	1			3		3			2	1	1	1	1			3
	電 気 機 器			1		1			1			1			1			1			1			1				1
	輸 送 機 器			1			1		1			1			1			1			1			1			1	
そ の 他																												
小 計		8	12	2	16	2	2	17	1	1	15	4		7	13		18	2		10	10	1	18	1		6	14	
非 製 造 業	卸 売 業		1	1		2		1	1			2			1	1		2					2			1	1	
	小 売 業	2	2	2		5	1		4	2		5	1	1	2	3		5	1				5	1	1	3	2	
	商 店 街			1			1					1				1								1			1	
	サ ー ビ ス 業		1	4					5			5			1	4		4	1					5			3	2
	建 設 業	1	2	1					4			4			3	1		3	1					4			3	1
	運 輸 業			1					1			1			1			1						1			1	
	そ の 他		1						1			1			1			1						1			1	
小 計	3	7	10		7	2	1	17	2		18	2	1	9	10		16	4				17	3	1	12	7		
合 計	3	15	22	2	23	4	3	34	3	1	33	6	1	16	23		34	6		10	10	1	35	4	1	18	21	

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成30年8月～令和元年8月)

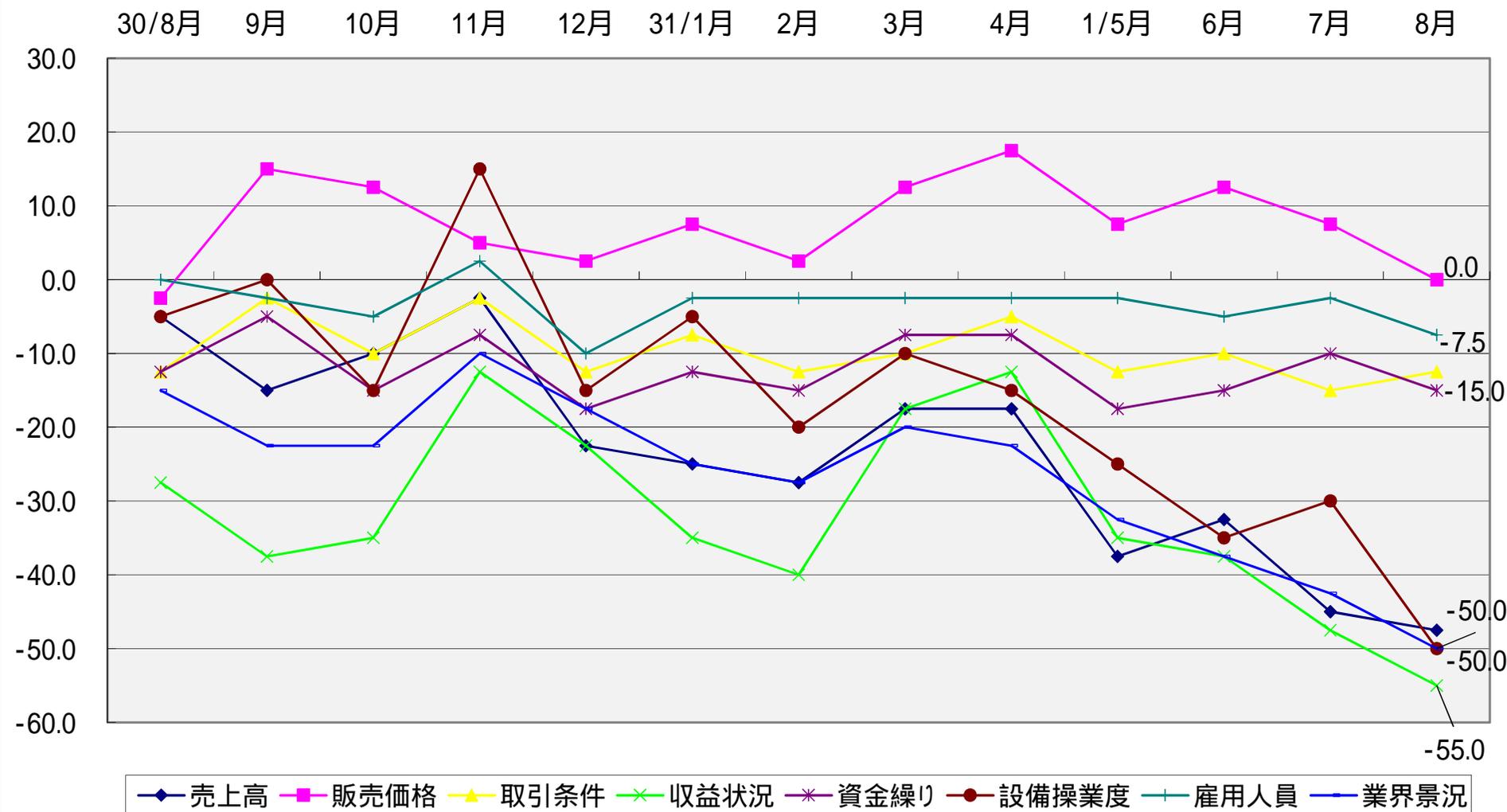
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

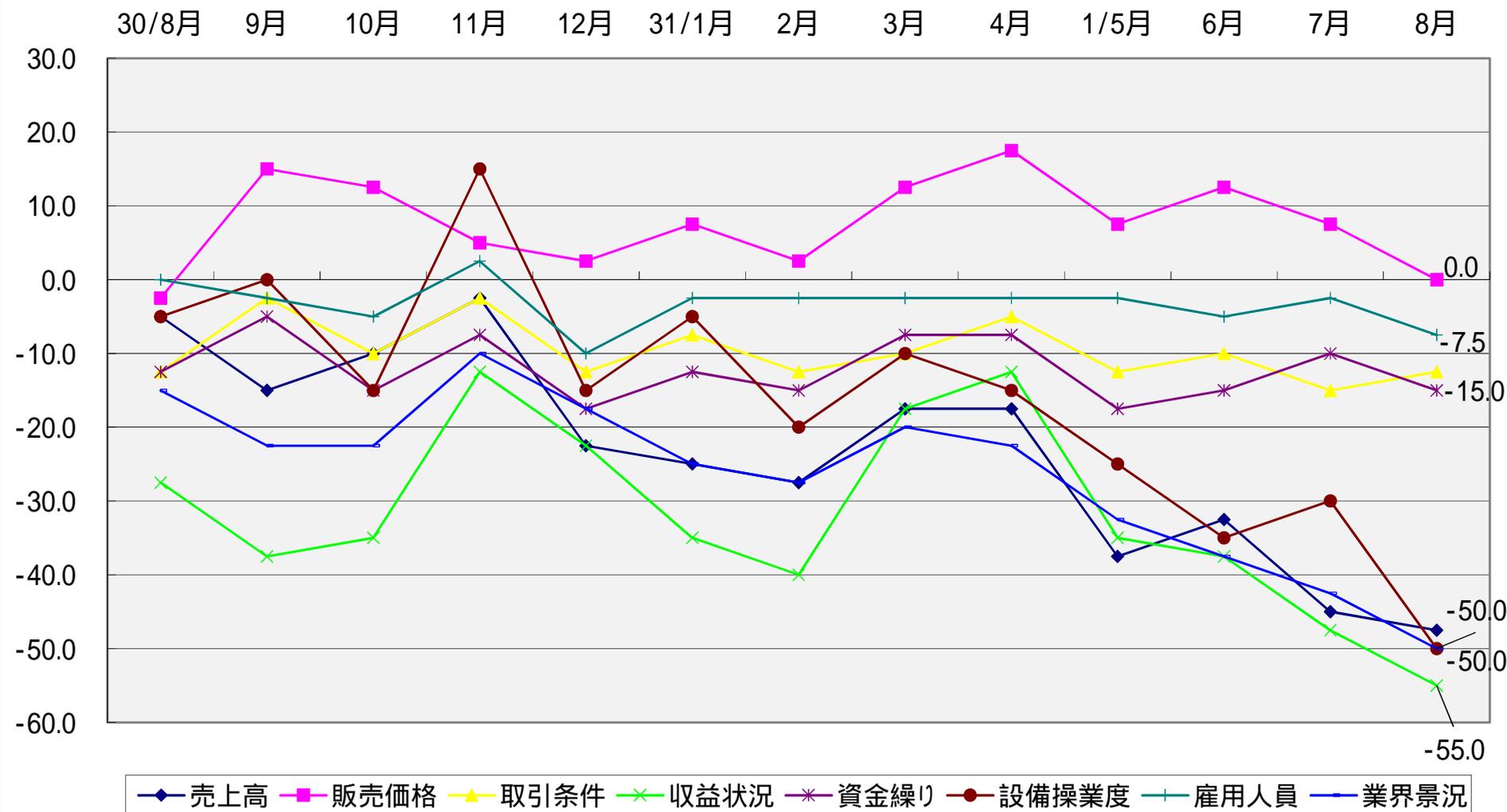
	30/8月	9月	10月	11月	12月	31/1月	2月	3月	4月	1/5月	6月	7月	8月	増減
売上高	-5.0	-15.0	-10.0	-2.5	-22.5	-25.0	-27.5	-17.5	-17.5	-37.5	-32.5	-45.0	-47.5	-2.5
販売価格	-2.5	15.0	12.5	5.0	2.5	7.5	2.5	12.5	17.5	7.5	12.5	7.5	0.0	-7.5
取引条件	-12.5	-2.5	-10.0	-2.5	-12.5	-7.5	-12.5	-10.0	-5.0	-12.5	-10.0	-15.0	-12.5	2.5
収益状況	-27.5	-37.5	-35.0	-12.5	-22.5	-35.0	-40.0	-17.5	-12.5	-35.0	-37.5	-47.5	-55.0	-7.5
資金繰り	-12.5	-5.0	-15.0	-7.5	-17.5	-12.5	-15.0	-7.5	-7.5	-17.5	-15.0	-10.0	-15.0	-5.0
設備操業度	-5.0	0.0	-15.0	15.0	-15.0	-5.0	-20.0	-10.0	-15.0	-25.0	-35.0	-30.0	-50.0	-20.0
雇用人員	0.0	-2.5	-5.0	2.5	-10.0	-2.5	-2.5	-2.5	-2.5	-2.5	-5.0	-2.5	-7.5	-5.0
業界景況	-15.0	-22.5	-22.5	-10.0	-17.5	-25.0	-27.5	-20.0	-22.5	-32.5	-37.5	-42.5	-50.0	-7.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	漬物	生産者の高齢化による生産量の減少が続いており、漬物業者自らの原料野菜の生産や県外からの原料野菜の確保を進めている。今年は春から夏にかけての高温、乾燥により、夏野菜の発芽、生育不良が発生し、原料の不足が生じている。特に夏野菜のキュウリの品不足、価格の高騰が続いている。9月1日に漬物製造管理士技能検定試験が行われ、中部地区で63名が受験した。また9月18日には中部漬物協会主催の若手リーダー研修会が愛知県で開催される予定。更に今年から外国人技能実習生を対象とした外国人技能実習評価試験を10月以降に予定している。
	醤油味噌	梅雨明けも遅く、お盆には台風が来て夏が短く、夏物商品(つゆ等)の売れ行きが悪く、状況は良くない。
	豆腐	ドラッグストアが食品を扱うようになり、豆腐も安価な価格で売られており、価格競争が厳しくなっている。
	製麺	8月は軽減税率について、研修会を行った。まだまだ分からない点があったが、しっかりと取り組んでいく。8月より昨年同様に暑さが厳しく、夏の商品はかなり売れてはいるが、7月は雨が多く、売れ行きに影響があった。伊勢うどんは伊勢市のお客様の入り方が良く、よく売れている。令和元年で多くの方々を訪れるのを期待している。
繊維工業	テントシート	作業員を募っても若い人がいない。人材不足。
紙・紙加工品	紙器段ボール	天候不順の影響や、長いお盆休みもあり農水産物、飲料を含む食品などの分野で出荷量がマイナスになった。米中貿易摩擦による影響もあり、電子、デバイス関係の出荷も減少になる。
	古紙	8月の取扱い重量は、前年比：段ボール約98±5%、新聞、チラシ約94±5%、雑誌、雑紙、その他・合わせて約96±3%で古紙の販売先によって各組合員の引き取り、持ち込み合わせて仕入れのバラつきが大きいようである。暑い日が長く、台風等の被害もあり、夏物野菜や飲料や氷菓子等の販売が少なかったようである。未だに古紙の輸出価格は国内価格を大きく下回っている。日米貿易摩擦やイギリスのEU離脱等の影響が、国内製紙会社の生産は全般的にマイナスで古紙は輸出をしないと在庫が増える状況である。夏物は不調が多く10月消費増税の駆け込み需要が期待される。近隣国の外交問題や軍事ロケット実験も心配される。政府が厚生年金と最低賃金の見直しを行い、電気やガソリン等の高止まりもあり、増税や人口減少を加味すると、中小零細企業は窮地に陥る所が多いと思う。古紙持ち去り行為も収まらず、ゴミの置き去りもあり、悪質な泥棒の小さな積み重ねが中小零細企業や団体等の存続を断ち切るかもしれない。
窯業・土石製品	伊賀焼	8月は台風の接近により、伊賀焼伝統産業会館の臨時休館の影響があったものの、入館者数、売上ともに微増であった。また、お盆、夏休み時期でもあり、作陶体験者数が大幅に伸びた。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産量は7月と同様でやや減少傾向にあった。自動車関連部品は増減はあるものの横並び状態であった。また、産業機械関連部品は若干の増加、建設関連部品は減少、半導体関連部品は長引く米・中貿易摩擦、韓国との関係も多少影響して低調だったが、9月以降若干の増産見通しである。4月以降の働き方改革に伴い、増員の必要に駆られているものの、人材不足は深刻で、人材派遣会社に頼るといった傾向にある。
一般機器	四日市	景気が後退気味である。米・中の関税戦争、日韓の対立等に加えて、ヨーロッパの経済も低迷している。ここ暫くは、経済は沈みがちであろう。消費増税が追い打ちをかける。人手不足が心配だ。
	津市	もともと8月は夏季休暇があり、稼働日も少ないので、売上は他の月より少ないが、昨年と比べても少し低調である。10月の消費増税に伴うような駆け込みもない。まだ、米中の問題等による減少はないものの、そのうち影響がでてきそうなので注意をする必要がある。
	伊勢	米中取り引きに関係ない企業も減産。国内状況は悪化している。
電気機器	鳥羽	お盆休み前に駆け込み受注があり、受発注の上昇を期待したが、伸び悩んでいる。
輸送機器	鈴鹿	夏季休暇中は昨年のような臨時出勤の必要は無く、昨年比で若干の稼働減・売上減であった。業界としては昨年度が良すぎただけと解釈しており、今年度は2年前と同じような景況感で推移しているようである。消費税増税前の駆け込み需要も特に目立った動きは感じられない。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)	
非 製 造 業	青果	野菜前半：全体的に安く、トマト、きゅうりはお買い得。ナス、人参も入荷は順調だが、高温が続くので、レタス、大根、キャベツは入荷が減ってくると値上りしそうである。野菜後半：雨の日が続く、トマト、きゅうり等野菜類は全体的に高値。大根は北海道産が豊作で大変お値打ち。北海道産の玉ねぎ、ジャガイモは平年並み。果物前半：贈答用、ハウスみかん、長野産の桃、デラウェア、巨峰等は味も良く、価格は平年並み。地場産幸水の入荷がピークで、やや小粒が多いが、味も良くしてお値打ち。果物後半：梨は地場産、長野産が最盛期でお買い得。スイカは暑さが続き、価格も高い。長野産リンゴ「サンつがる」の入荷が始まる。	
	自転車	今年の8月は厳しい月だった。大型店の正確な情報については詳細を知りえないが、零細業者においては、売上台数は例年の半分にも達しなかった。月末に向かって点検整備の顧客が増えてきたものの、去年程度に達するものではなかった。これからサイクリングシーズンに入っていくので、頑張っていきたい。	
	電器	8月は、7月と違って変って月初から猛暑日が続く、エアコンの設置に追われるようになった。7月のエアコンや冷蔵庫の落ち込みをカバーするように販売の強化を進めたが、お盆過ぎには台風等の影響もあり落ちてきた。また洗濯機などの白物家電と、4Kテレビの拡売に努めた。今年は、消費税の増税を控えており、駆け込み需要にも対応を準備しているが、具体的な数字にはまだ繋がっていないのが現状だが、テレビの新製品の発売時期を早めてアピールしており、高額品の販売に繋がるように期待をしている。	
	石油	天候不良であった7月の低迷から一転して8月の好天の影響により、県内のガソリン販売数量は、前年比110%前後と好調であった。記録的な猛暑と割安な店頭価格が今夏のガソリン需要を押し上げ、さらに油外商品としての洗車収益も大きく寄与し、SS業界においては、幾分経営内容の改善が行われたのではないだろうか。9月については、10月の消費増税対策として、タイヤ等の高額商品の販売強化を計りたい。	
	スポーツ	8月は雨が多く個々の販売は大変難しい月だった。昔から「スポーツ店を殺すには刃はいらぬ雨の3日も降ればよい」と言われている。夏休みなので部活が活発に行われ、普通の月より賑わうのが本当なのだが、雨が多かったことで今年は違っていた。	
業	商店街	熊野市	今年はお盆時期の台風の影響により、観光施設や宿泊施設等で大きな痛手となった。特に熊野大花火大会では延期の影響も相当大きく、例年の半分ほどの売り上げしかなかった業者も多く、相当厳しい夏となった。
	旅館	7月後半の夏休みに入ってから、天候不順で客足が伸びなかったが、8月に入ってから夏らしい好天に恵まれV字回復して連日満館の日が続いていたようである。しかし、お盆の15日、16日の台風により2～3日はキャンセルでどこも閑散としていた。少しは後半に振り替わったようだが、全体では前年割れだった。8月の営業成績は天候に左右されるので、売上計画の予測が難しい。	
	測量	一番の目的である共同受注は、未だ1件もなく下請けに走っている。伊勢地域においては、官民ともこれといって大きな開発、改良もなく業界は冷え切っている。	
	警備	今年には例年にない梅雨の長雨で交通誘導警備の現場中止が多く、受注減となった。	
建設業	総合工事業	公共工事の発注状況は順調である。これは「防災減災・国土強靱化のための3か年緊急対策」を財源とする直轄事業が多く発注されていることによるものである。第3四半期前半までは同予算を財源とする県発注工事も期待できることから、順調に推移すると予測している。	
	内装工事業	8月は盆休みもあり、対前年同月比でわずかながら減少となり、予測通りであった。10月からの消費増税による駆け込み需要は思ったほどないようで、9月も対前年比は減少と予想される。	
運輸業	トラック	輸送需要は減少傾向にある。また、トラック運送事業における人手不足感が一段と強まっている。	

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	9月度は伊勢うどんの試食会を開催し、各事業所をチェックして、よりよい製品づくりに反映していく。
一般機器	四日市	国の政策に不満である。政府の無策に呆れてしまう。
サービス業	旅館	BCP(事業継続計画)策定のため、専門家の派遣、計画に伴う補助金の要望をする。
運輸業	トラック	人材確保対策の強化。